

# 積み重ね つみ重ねても またつみかさね

令和4年5月11日 No. 7 文責：佐野紳二

## 小中一貫教育③ 「対話力」の育成

櫛形中学校小中一貫教育では、「対話力」の育成を特に重視しているということを、前回の学校通信で書かせていただきました。今日はまず、そのことに関わる話を紹介させていただきます。書いたのは、上越教育大学大学院・西川純教授です。

面白い調査があります。

「頭の良い人」とはどんな人を指すでしょうか？

周りの人に聞いてみると、おおむね、「知識が豊富で、理解力・判断力がある人を指し、創造力のある人」が「頭の良い人」という答えが多いようです。

しかし、「頭の良い人はどんな人」という調査をするのではなく、「まず、「あなたの知っている頭の良い人」を思い出して下さい。そして、その人はどんな人か？」を調査するとどのような結果が得られるでしょうか？つまり、「頭の良い人」という言葉を調べたのではなく、実際の「頭の良い人」を調べたのです。

その結果、最も重要な能力は**コミュニケーション能力**だと同定しています。

具体的には、面白い話を言えるという能動的なコミュニケーション能力と、人の気持ちを分かり共感できるという受動的なコミュニケーション能力です。

なぜ、そのような結果が出たのでしょうか？

我々が一般社会において何かの仕事を与えられた時、必ずしも一人で解決することを求められることはありません。求められるのは、それを解決することのみです。

解決するならば、それは他人の能力をいくら使っても良い状態です。

従って、他人の能力を使える能力があるならば、他人の能力も自分の能力とすることができます。それ故、一般社会における「頭の良い人」とはコミュニケーション能力によって、人の能力を使える人です。

私は「人格」とは「人と関わる能力」と捉えています。

つまり、他の人と仲良くやれる能力が本当の能力であり、そして仲良くやれることが人格の完成\*の具体的な姿です。

先に述べたように、我々はこのコミュニケーション能力は教えなければならないとは考えていません。

我々のDNAに組み込まれていると考えています。

西川純：ネットブック『学び合い』の手引書 より



「人格の完成」：教育基本法の第1条には「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」と記されています。西川氏は、この「人格」を「人と関わる能力」と考えています。

AI（人工知能）が発達し、ビッグデータを分析することでコンピュータが囲碁や将棋の有段者に勝つ時代ですが、そうした時代（Society5.0の世界）では、自分だけで物事を解決しようとせず（なぜなら、個々の能力には限界があるから）に他者と協働し、課題を解決する能力が必要だ（情報を整理し、ネットワークを構築

して新しい考え方や方法を見出していくのは、人間の持つ素晴らしい能力で、AIにはできないことだから)とされています。

楡形地区小中一貫教育では、この「対話力」を育成するために、日々の授業の中での対話力の育成とともに、「Simple (スリンプル) プログラム」にすべての小中学校で取り組んでいます。

「Simple プログラム」については、昨年度もこの紙面やホームページで何度か紹介させていただきました。これは、名城大学の曾山和彦教授が考えた、人間関係改善(向上)のためのプログラムです。「Simple」という言葉は曾山先生の造語で、Slim (スリム) + Simple (シンプル) で Simple です。本校をはじめ、市内の小中学校では「あやめっ子タイム」、楡形中学校では「くっしータイム」という名称でこの Simple プログラムに取り組んでいます。本校では毎週水曜日の朝、北小タイムの時間にあやめっ子タイムを行っています。



あやめっ子タイムでは、クラスごとに2~4人組をつくって、

「どちらを選ぶ」 「質問ジャンケン」 「アドジャン」 「いいところみつけ」

の4つのエクササイズに取り組めます。やり方は簡単です。

- 1 はじめに「お願いします」のあいさつを相互に交わします。
- 2 今日の活動の内容を確認し、友だちとのコミュニケーションをはじめます。例えば「どちらを選ぶ」では、「犬と猫はどちらが好き?」「夏休みと冬休みはどちらが好き?」などのお題について、自分の好きなものを答えていきます。聞く方は「うなずきながら」「ニコニコ笑顔で」聞く約束です。
- 3 次は質問タイムです。2の答えについて「どうして〇〇が好きなの?」など理由を聞くなどして、相互の「かわり」を深めていきます。
- 4 最後に「ありがとうございました」のあいさつを相互に交わします。

全体で10分程度の短時間での取組ですが、「ソーシャルスキル・トレーニング」「構成的グループエンカウンター」などの技法を取り入れている、心理学的な知見に基づくプログラムになっています。

この Simple プログラムの実践を通して、子どもたちは友だちとの関わり方の基礎を学んでいきます。10分間の活動ですが、この活動の中でお互いを理解し合い、認め合い、尊重し合うことを経験し、子どもたちは1日を笑顔でスタートすることができます。また、あやめっ子タイムで経験した友だちとの関わりを、日常生活や日々の授業の中に生かしていくことで、更に仲間との関わりが良好なものになり、学級が子どもたちにとって居心地のよい居場所となり、いじめなどの諸問題の未然防止にもつながると考えられています。すでに日本各地の多くの学校でも取組まれ、その効果が実証されています。



あやめっ子タイムの取組のようすは、今年も本紙面やホームページでお伝えしていきます。次号では、対話力を育成するための「授業」について、書かせていただく予定です。もう少しお付き合いください。